

GREEN RADER



中期事業計画(令和7~9年度)並びに令和7年度事業計画書

A-Reports

- ・信州フラワーショーウィンターセレクション 05
- ・地元の養豚農家との交流学习
飯山市立常盤小学校へ「北信州みゆきポーク」を贈呈 06
- ・「農業用ドローン研修会」開催 07
- ・国産農畜産物商談会にて開発商品を提案 08
- ・長野県産新米キャンペーンを実施 08
- ・「第2回ちくさんらくのう女性の集い」を開催 09
- ・東信事業所移転のお知らせ 09
- ・今月のおすすめレシピ 10
- ・JA全農長野の事業現況 10
- ・3月のラジオ番組表 10
- ・編集後記 10

J A全農長野基本理念

会員J Aとの一体的な事業運営により、生産販売から購買まで一貫する総合経済事業を通じて、J A組合員の営農と生活の向上に貢献します。

【事業運営の基本目標】

1. 持続可能な農業生産基盤づくりによる農業生産量の維持拡大
2. 販売力強化とコスト低減による農家組合員の手取り最大化
3. J A経済事業の収支改善と活気ある地域社会づくり

【経営管理の基本】

県本部総合経営管理制の堅持による県域機能の発揮

中期事業計画(令和7～9年度)並びに 令和7年度事業計画書

基本方針

1. 世界的な食料需要の増加や地政学的なリスクの高まりにより、食料安全保障がクローズアップされるなか、国際情勢の不安定化による原材料やエネルギー価格の高騰、頻発する異常気象による農畜産物生産への影響、さらには運送業界における時間外労働の上限規制に伴う物流費の上昇など、農業を取り巻く環境はますます厳しくなっています。特に、生産資材価格の高騰は生産コストを上昇させ、農家・生産者の経営を圧迫しています。また、生産現場では慢性的な労働力不足の状況にあり、生産コスト上昇とともに持続的な農業経営を妨げる要因となっています。
2. 一方で、政府は「みどりの食料システム戦略」に基づき、環境負荷軽減事業活動を促進するとともに、食料安全保障の確保や農業の持続的発展のため、「食料・農業・農村基本法」を改正しました。また、改正農業経営基盤強化促進法に基づき地域計画を策定して農地の集積・集約化をすすめています。さらに、農家・生産者の高齢化や労働力不足への対策として、スマート農業や農業DXを推進しています。
3. 長野県における農業産出額は、近年の単価高を背景に増加傾向にあります。長野県J Aの農畜産物の取扱高は減少を続けています。今後、経営体数や経営耕地面積もさらに減少することが予想されます。また、J Aの正組合員数は長野県の人口や農業経営体数とともに減少していますが、准組合員数は増加傾向にあり、J Aの組織基盤構造に変化が生じています。構造の変化に伴い、組合員ニーズも変化しており、地域の活性化やJ A経済事業の進展とともに対応する必要があります。
4. このような環境のもと、長野県本部は基本理念に基づき、不断の自己改革をすすめることに、J A・および子会社と連携を深めることで部門別事業競争力の強化およびJ A経済事業収支の改善をもとに、経営基盤の確立を目指します。また、県本部総合経営管理制を堅持し、県域結集の拡大とその成果のJ A・組合員への還元をすすめます。

経営計画

総供給販売高計画(年度別)

【単位:百万円、%】

部 門	令和7年度計画	令和6年度計画	対比 (R7/R6)
生産 振 興 部	268	280	96
生産 販 売 部	164,232	160,420	102
生産 購 買 部	33,200	33,400	99
畜 産 酪 農 部	32,900	32,300	102
く ら し 支 援 部	39,400	44,200	89
総 合 計	270,000	270,600	100

税引後当期利益 1億2千万円(税引前当期利益 2億円)

事業方針

1. 農業振興事業

- (1)生産基盤維持に向けて、生産振興・生産販売・生産購買部門が連携し、マーケットニーズや地域実態、担い手ニーズに応じた生産提案により、生産振興をはかります。また、JA営農指導の支援体制を強化し、生産性向上に向けた栽培技術の提案と普及に取り組みます。
- (2)機械化や省力栽培技術などを活用して作業効率化をはかり、生産基盤の維持拡大をすすめるとともに、作業の省力化や反収向上に向けた農業DXの普及を推進します。
- (3)気候変動による高温や激甚化する災害への生産安定化対策として、排水対策技術や施設化を提案するとともに、優良品種の検討をすすめます。
- (4)生産基盤の維持に向けた、野菜・花き優良苗の安定供給およびりんごフェザー苗の供給体制の強化に取り組みます。
- (5)みどりの食料システム戦略を踏まえ、環境負荷軽減資材や栽培技術の検討および普及に向けた試験を

2. 生産販売事業

- (1)需要動向の変化を捉え、卸売会社との連携を強化し、実需者営業を拡充して生産者手取りの最大化をはかります。また、輸出先国の開拓や既存取引の拡充による輸出事業の拡大と、加工・業務対応の強化に取り組みます。さらに、食育・花育活動を通じて需要を創出し、「国消国産」の運動を展開します。
- (2)米穀および青果物・花きの効率的かつ持続可能な輸送体制の構築をすすめます。荷待ち時間の短縮と配送の集約化、パレット輸送や出荷規格、資材の見直し等による輸送トータルコストの抑制に取り組みます。
- (3)マーケットインを起点とした生産対策に取り組みとともに、JAと連携を深め、系統未利用・低利用の生産者に向けた生産販売提案により系統利用の拡大をはかります。

また、生産基盤の維持、拡大に向けた指導体制、事業体制の構築に取り組みます。

3. 生産購買事業

- (1)農業資材事業は、安定供給と品質の保持を前提とした適正包装をすすめ、コスト低減をはかるとともに、機能性の高い包材の導入により、商品競争力を強化します。また、「運送業界における時間外労働の上限規制」に対応するため、パレット輸送に適合した包材の開発をすすめます。
- (2)肥料農薬事業は、BB肥料の原料・
- (4)JAとともにDX化をすすめ、米穀および青果物流通業務の事務効率化をはかります。また、実需者営業の強化や物流の効率化に向け、データの利活用ができる体制の構築に取り組みます。
- (5)長野米の需要(高温耐性品種を含む)に基づく生産の推進と、JAと連携した卸売業者や実需者への直接営業の強化により、長野米有利販売を実現し、長期的かつ安定した生産者所得の増大に取り組みます。

成分の見直しによる低コスト銘柄の開発、農薬・マルチの需要結集による価格対策によりコスト低減をすすめます。また、担い手の需要に応えるため、「わたしの肥料」「軽量肥料Lightシリーズ」「農業大型規格」など省力・高機能資材および先進技術の提案型推進に取り組みます。

(3) 店舗事業は、経営分析に基づく改善提案、相談機能の發揮に向け、店舗別研修会を拡充します。生産資材物流は、JA・地域の物流拠点・配送体制再編により、持続可能な供給体制構築に取り組みます。また、みどりの食料システム戦略に対応した資材の普及をすすめます。

(4) 農業機械事業は、スマート農業機械の普及をすすめるとともに、地域推奨型式・共同購入コンバインの重点購買および中古農機の確保・流通拡大を通じ、生産コストの低減に取り組みます。また、県域農機整備センターによる整備受入の拡大とJA整備士の育成により、JA農機整備事業の強化をはかります。

(5) 施設住宅事業は、施工代行を基本とした一級建築士事務所による専門性を發揮し、高度化する農業施設への技術提案機能の強化をはかるとともに、JAの事業拠点再編・整備構想に則した新築・改修提案に取り組みます。また、省エネ・再生可能エネルギー機器の導入提案や多様な組合員ニーズに対応した建物保全管理の支援による住環境改善事業に取り組みます。

4. 畜産酪農事業

(1) 空舎活用等による畜産生産基盤の維持・確保をはかるとともに、意欲ある生産者の規模拡大に向けJAグループ各社と連携し、支援をすすめます。また、系統結集をさらに高め、販売頭数を確保します。

(2) 信州産ブランドとしての畜産物の認知度向上と品質訴求による販売力強化をはかるとともに、取引先との連携による信州プレミアム牛肉の輸出拡大や、各種PR活動を通じた信州産生乳の消費拡大に取り組み、生産者の所得を確保します。

(3) 長野県中央家畜市場でのライブ配

信によるセリ状況の情報発信と購買客の誘致を通じて、県内優良子牛の有利販売をはかり、生産者の所得確保と年間上場頭数を維持します。

(4) 県本部生産農場の機能發揮による経営収支の安定をはかるとともに、三岳牧場はプロジェクトに基づき新たな事業体制を構築します。

(5) 県内食肉処理施設の整備を県・市町村等とすすめていくとともに、販社との連携を強化し、県産食肉の流通体制を堅持します。

(6) 中信地区における営農指導体制は、中央会や構成JAと協議し、適切な方向性を定め、整備に取り組みます。

5. 暮らし支援事業

(1) 石油事業は、系統結集による数量を背景とした仕入強化と、SSマスタープラン策定および体制整備に取り組みます。また、WEB化の対応をすすめ、SSおよび配達顧客の固定化と新規獲得により石油類シェア確保をはかります。LPガス事業は、年次別マスタープランの実践とJAでんき供給拡大

によるホームエネルギー取扱体制の構築をすすめるとともに、新たな小売事業方式の検討・展開により事業強化に取り組みます。

(2) SS協同経営事業は、JA事業との連携強化によりJAらしいSSづくりに取り組みるとともに、SSアプリ・LINEを活用した顧客囲い込みをはかります。またライフレインの維持に向け、ライフレインSS協同経営方式の展開をすすめます。

(3) 自動車事業は、営農車の車種拡大に取り組み、取扱台数を確保します。また、先進技術・ニーズに対応した電動車等の取扱体制整備をすすめます。

(4) Eコマース事業「JAタウン」は、信州産農畜産物・加工品の出品を拡充し、取扱高の拡大に取り組みます。また、組織購買事業は、組合員に対して魅力ある商品の提案・推進に取り組み、事業量の確保をはかります。

(5) 変化する組合員・消費者ニーズに応じた新規事業の構築に取り組みます。

(6) セレモニー事業は、多様なニーズ

に対応した葬儀サービス・商品提供を強化し、葬儀件数とシェア確保につながる虹のホールグループ活動に取り組みます。

6. 経営管理

(1) 県域結集および事業競争力の強化と、県本部総合経営管理制の堅持により、JAおよび組合員にメリットを還元します。

(2) 事業環境の変化を考慮し、県本部機能に見合う部門別収支を検証し見直すとともに、事業管理費を精査し管理コストの削減に努め、経営の安定化をはかります。

(3) 一斉事業点検や業務点検を通じて、コンプライアンス体制を強化し、法令違反、労務管理、労働災害、ハラスメント、個人情報管理などの重点管理すべきリスクの未然防止に努めます。

(4) 業務体制の効率化をはかるとともに、職員の能力開発・人材育成をすすめます。また、JAおよび子会社との連携を深め、県本部としての機能を最大限発揮する多様な雇用形態による要員体制を確立します。併せて、人事制度の見直し

を行い、働き方の多様化に対応した働きやすい職場の実現に取り組みます。

(5) JA長野県グループおよび行政機関等と連携し、効果的な広報活動と、地域に貢献する組織広報をすすめます。また、県内プロスポー選手等の活用により県産農畜産物の宣伝・PR活動に取り組みます。

(6) 子会社は、内部統制システムの運用およびコンプライアンス体制の強化により健全な経営管理を行い、JA経済事業の補完機能の強化に取り組みます。



果実花き課

信州フラワーショーウインターセレクション 農林水産大臣賞に有賀美和さん（JA上伊那）のアルストロメリア

信州フラワーショー運営委員会は1月23

日(木)と24日(金)の両日、伊那市のJA南信会館で「第54回 信州フラワーショーウインターセレクション」を開催し、アルストロメリアをはじめアネモネ、ダリア、花木など335点が出品されました(表紙左上)。

会場には信州の厳しい冬の中で育てられた高品質な花々が並び、開花状態や色の鮮やかさ、花全体の形やバランス、商品性・市場性などが審査され、最高賞の農林水産大臣賞に選ばれたJA上伊那の有賀美和さんが出品したアルストロメリア「ワンダースイート」(表紙右上)をはじめ、33品が入賞作品に選ばれました。

花き青年部によるフラワーアレンジメントの制作も行われ、県下から多くの若手生産者が集まり、講師に作り方を教わりながら80個を完成させました。

会期中には伊那東小学校の3年生が来場し、会場見学と地元産のアルストロメリアとユーカリを使用してアレンジメント制作を体験しました。また、上伊那農業高校の花き専攻の

生徒20名が来場し、全農長野の職員が各品

目の生産状況や特徴を紹介しました。生徒は熱心に話を聞きながら、気になる品種の写真を撮影していました。

会期前にメディアを活用して告知をしたところ、開場時間前から長い列ができ、即売品の花束やアレンジメント、出品物の予約販売も大盛況で、準備品は完売しました。今回は、次年度のサマーセレクションを7月24日(木)・25日(金)にJA長野県ビルで開催する予定です。



アレンジメントづくりを体験する伊那東小学校の児童



開花状態や色の鮮やかさなどを審査

第54回 信州フラワーショーウインターセレクション 入賞者名簿

(敬称略)

	品目名	品種名	氏名	JA名
農林水産大臣賞	アルストロメリア	ワンダースイート	有賀 美和	上伊那
農林水産省農産局長賞	アルストロメリア	レフコス	唐澤 勲	上伊那
農林水産省関東農政局長賞	アルストロメリア	ゴールド	有限会社 信州グリーンサポート	上伊那
全国農業協同組合連合会長賞	ダリア	ミツチャン	多田 頼充	みなみ信州
	アルストロメリア	ピノット	吉澤 栄二	上伊那
長野県知事賞	アルストロメリア	ホットベッパー	株式会社 カルチバフローレス	上伊那
	アネモネ	モナリザ	人形 美幸	信州諏訪
	アルストロメリア	ミルクティ	酒井 弘道	上伊那
	アルストロメリア	ピンクティアラ	有限会社 末広農園	上伊那
日本花き卸売市場協会長賞	アルストロメリア	マッサ	赤羽 隆芳	上伊那
フラワー産業議員連盟会長賞	花木	日本レンギョウ	柴田 正行	佐久浅間
	アルストロメリア	ゴールド	山田 秀一	松本ハイランド
長野県農業協同組合中央会長賞	アルストロメリア	ピンクサブライズ	農事組合法人 らいふ	上伊那
	スタンダードカーネーション	ブリザ	阿部 和博	佐久浅間
	アルストロメリア	パーティー	小笠原 秀樹	上伊那
	アルストロメリア	トンプス	中原 睦男	上伊那
	アルストロメリア	キャンディーツリー	矢崎 深志	信州諏訪
	アルストロメリア	ニア	矢野 源彦	上伊那
全国農業協同組合連合会長野県本部長賞	アルストロメリア	レフコス	久保田 卓二	上伊那
	クレマチス	ダブルラベンダー	池田 毅	みなみ信州
	アルストロメリア	ハニーツフィア	永井 智	上伊那
	アルストロメリア	プライズメイド	株式会社 アグリコ	上伊那
	アルストロメリア	ピンクティアラ	篠原 俊	信州諏訪
	アルストロメリア	アメジスト	柳澤 一夫	信州諏訪
伊那市長賞	アルストロメリア	ピンクティアラ	柳澤 源悟	信州諏訪
	アルストロメリア	マッサ	古畑 雅一	上伊那
フラワーショー運営委員長賞	アルストロメリア	ハニーツフィア	小須田 和明	佐久浅間
	ダリア	黒蝶	大平 篤史	みなみ信州
	アルストロメリア	ピンクティアラ	村澤 博	上伊那
	ランタンキュラス	ボンボンルナ	株式会社 フロムシード	上伊那
	アルストロメリア	イノセントマリー	星野 仁志	信州諏訪
	アルストロメリア	ワンダースイート	小池 潤	信州諏訪
	アルストロメリア	ゴールド	伊藤 哲	上伊那

地元の養豚農家との交流学習

飯山市立常盤小学校へ「北信州みゆきポーク」を贈呈

J A長野県・信州ポーク生産販売協
議会（事務局／J A全農長野畜産酪農
課・J Aながのみゆき営農センター）
は1月21日（火）、飯山市立常盤小学校へ
給食用の食材として「北信州みゆき
ポーク」の贈呈を行いました。

同小学校は、同地域内の北信州みゆ
きポーク生産農家である佐藤良昭さん
（76）ご夫妻と10年以上前から総合的
な学習の時間を使って交流を深めてき
ました。今年度も3年生の児童8名が
数回にわたり佐藤さんの豚舎を訪れ、
肥育されている豚を観察したり、佐藤
さんから豚の飼育方法などを聞いたり
して、養豚の理解を深めてきました。

学習のまとめとして行われた発表会
に佐藤さんご夫妻も招かれ、児童たち
の真剣で元気な発表に感動した佐藤さ
んが、自身の出身校でもある常盤小学
校へ北信州みゆきポークを贈りたいと
いう熱い思いから今回の贈呈が実現し
ました。

贈呈に合わせ佐藤さんご夫妻のほか、
地元J Aながのみゆき営農センターの

職員1名、全農長野畜産酪農課の職員
1名も招かれ、みゆきポーク学習の集
大成として最後の授業が行われました。
授業では、児童からの豚の出荷の流
れや食肉処理に関するインタビュアーに
答えたり、「みゆきポークラジオ」と
いう校内放送ラジオと一緒に収録した
りと有意義な時間を過ごしました。そ
の後の給食では、北信州みゆきポーク
の大きなとんかつが全校児童64名に提
供されました。この日の給食を楽しみ
にしていた児童は大いに盛り上がり、
佐藤さんご夫妻も自分たちの育てた豚
肉をおいしそうに頬張る姿を笑顔で見
ていました。

常盤小学校はこの3月に130年の
歴史に幕を閉じ、近隣校と統合されま
すが、今後も、歴史ある「みゆきポ
ーク学習」の継続を希望します。しかし、
みゆきポーク生産者は、佐藤さんと、
同級生の春日さんの2軒となり、とも
にご高齢なことから存続が危ぶまれて
います。畜産を取り巻く環境は、飼料
価格の高止まりや施設の老朽化、後継

者不足、地域での環境対策など課題が
山積しています。このような状況でも
今回のようなみゆきポークの学習を
きっかけに、少しでも養豚をはじめ畜
産に興味を持つ子どもが増えることを
期待します。

命の授業。数年前には伊那市内の小
学校で豚1頭を飼育し、出荷した事例
もありました。畜産は命を直接感じる
産業であり、小学生に学習させるには
刺激が強い、時期尚早など、賛否両論
あるかと思えます。ただ、命をいただ
く、感謝して食べることを肌で感じる
ことのできるとても大切な機会です。
畜産酪農課では、食育活動、畜産体験
授業など、子ども
たちへの重要な学
習の場に協力しな
がら、次世代へと
つながる取り組み、
そして信州の農畜
産物のPR、消費
拡大に今後も努め
て参ります。



児童と交流する佐藤さんご夫妻



大きなとんかつの給食



児童からのインタビューに答える佐藤さん

「農業用ドローン研修会」開催

農業用ドローンは作業の省力化等を目的に、地域の担い手農家をメインに徐々に普及が進んでいることから、JA全農長野農業機械課と生産資材課は2月5日(水)、安曇野市のJA全農長野営農研修センターにて「農業用ドローン研修会」を開催し、県下JAより農機・資材担当者50名が参加しました(Ⅱ表紙左下)。

講師として3社(㈱関東甲信クボタVFR㈱、㈱NTT e・Drone Technology)を招き、それぞれの機体(製造元/DJI、マゼックス、NTT e・Drone)の特徴を学びました。また、試験圃場でデモフライトを行い実際の散布作業のイメージを確認し、各機体の特徴を比較しました。

■各機体の特徴とデモフライト

講師として3社(㈱関東甲信クボタVFR㈱、㈱NTT e・Drone Technology)を招き、それぞれの機体(製造元/DJI、マゼックス、NTT e・Drone)の特徴を学びました。また、試験圃場でデモフライトを行い実際の散布作業のイメージを確認し、各機体の特徴を比較しました。

■法令関係について

ドローンの取り扱いにあたっては、安全運用に関する規制が法律で定められており、航空法や電波法、農薬取締

法が関わってきます。今回は基礎的な法律やルールについて、ドローンの取得からオペレーター講習、飛行計画の申請方法や定期点検等の運用の流れを研修しました。

■肥料農薬散布について

ドローン散布で使用可能な登録農薬の概要や実際に散布する際の圃場周辺への周知といった注意事項を研修しました。

■栽培管理システムザルビオ® フィールドマネージャーについて

スマート農業としての一翼を担う本システムは、衛星画像とAI分析により、地力・生育マップの作成による施肥判断の補助、生育ステージ予測や病害防除アラートによる肥料農薬散布の適期の通知、可変施肥・可変散布による収量向上支援など様々な機能があります。一部ドローンにおいても同システムと連携した防除や可変施肥が可能のため、システムの内容と使い方等について研修しました。

参加したJA担当者からは「購入してから使用までの実際の流れが理解でき、大変参考になった」「ドローンメーカー3社の比較から農薬の知識まで勉強できる機会は初めてで、今後に活かせる研修会になった」と感想をいただきました。

昨今の気象条件に沿って、高品質な農産物生産には適期の防除作業がより一層必要となってきました。農業用ドローンは散布作業の省力化等から今後も普及拡大が見込まれるため、全農長野では今後も積極的に農業用ドローンの導入に取り組んでいきたいと考えています。



機体の特徴について説明を受ける受講者



ドローン飛行の様子



操縦の説明を受ける受講者

国産農畜産物商談会にて開発商品を提案

J A全農長野生産販売部は（一社）長野県農村工業研究所とともに1月30日（木）と31日（金）の2日間、第19回J Aグループ国産農畜産物商談会（会場／東京都立産業貿易センター浜松町館）に出展し付加価値販売を目的として開発した商品の提案とともに県産農産物をPRしました（Ⅱ表紙右下）。

全国各地のJ Aやグループ企業がこだわりの逸品を提案する同商談会には、主にB to Bを目的として量販店・生協バイヤーや食品加工・食品卸売業、中食・外食業の仕入担当者などが多数来場し、全農長野ブースは延べ150社以上に来訪いただきました。ブースでは販売中の信州果実コンポート（りんご三兄弟[®]、ぶどう三姉妹[®]、ワツサー）やフリーズドライ商品（信州野菜と豚肉の具沢山味噌汁、信州きのこのコンソメスープ）に加え、開発試作段階のりんごを使用したピクルスとりんご&ぶどうのフルーツソースの試食品計600食を準備して、農工研の研究員から加工技術面の説明サポートを得ながら新規顧客の獲得やマーケットニーズの収集を行いました。

信州果実コンポートは「旬の時期以外でも食感・食味を手軽に味わっていただきたい」という開発コンセプトを紹介し、大消費地圏のデパート・量販店での店頭取り扱いや製菓・製パンの原料、通年で需要が見込まれるインバウンド向けの商材など、様々

な用途への引き合いを受けました。また、フリーズドライ商品は県産原料を使用している特徴から複数の国内向け通信販売での検討をいただきました。ピクルスの調味やフルーツソースの組み合わせはありそうでなかった商品として卸売業・外食関係者から関心が寄せられました。

提案した開発商品以外にも長野県産の米や青果物への取引要請や県内加工メーカーへの紹介依頼もいただき、顔の見える取引や国産原料への関心の高まりがうかがわれました。

生産販売部では、次年度以降もカット・冷凍など付加価値技術を持った開発パートナーの開拓や規格外品の原料活用など県産農産物の価値向上に継続的に取り組んでいきます。



果実コンポートの試食



提案した商品

長野県産新米キャンペーンを実施

全国から18,355件の応募をいただきました

J A全農長野米穀課は、新米が出回る10月から12月に「長野県産新米キャンペーン」を行い、全国からはがき・ウエブ合わせて18,355件の応募をいただきました。

キャンペーンは、対象商品の米袋に貼つてあるキャンペーンシールのシリアルナンバーを2つセットで応募すると、抽選で100名様に10000円分のお米券、ダブルチャンスで外れた方の中から200名様に保冷ランチトートバッグをプレゼントするという内容でした。キャンペーン専用ウェブサイトでは、ごはんをおいしく冷凍する方法を紹介しました。

抽選は2月12日（水）の食糧専門委員会で行い、当選者が決定しました。

米穀課では、長野米の消費拡大をより一層進めるため、今後も有効な企画を実施して参ります。



食糧専門委員会による抽選

販売流通企画課

米穀課

▼▼▼畜産酪農課

「第2回ちくさんらくのう女性の集い」を開催

JA全農長野と関係団体は1月30日(木)と31日(金)の2日間、下伊那郡阿智村昼神温泉郷で「第2回ちくさんらくのう女性の集い」を開催しました。

日ごろは飼養管理等でゆつくりと出掛けれられない皆さんが一年に一度、畜種を超えて集まり、これからの長野県畜産酪農事業にかかわる情報交換を行い、連帯感を高めると同時に、リフレッシュしていただくことを目的に、県内の畜産酪農の女性従事者50名が参加しました。

今年の研修内容は、全農長野畜産酪農課松本肉畜販売所の青島貴史係長が講師を務め「長野県内の銘柄豚の説明および試食」を行いました。それぞれの銘柄豚には特色があり、参加者は試食をして「どれもおいしく、甘みが強い」「お肉が柔らかい」などの感想を言いながら特徴を確かめました。また、全体をとおして多くの参加者から「来年も必ず開催してほしい」「一年に一度の楽しみ。もっと参加者を増やす工夫を、事務局だけでなく皆で考えていきたい」と前向きな感想をいただきました。

全農長野畜産酪農部の井出和士部長は

「皆さまの日ごろの努力・苦勞に対し、少しでも感謝の気持ちを伝えたい。そのために、事務局は皆さまに楽しんでいただけるよう毎年企画を工夫して考えている。少しでもリフレッシュしていただき、明日への活力になればありがたい」と開催の意義を話しました。



青島係長の講義を聞く参加者

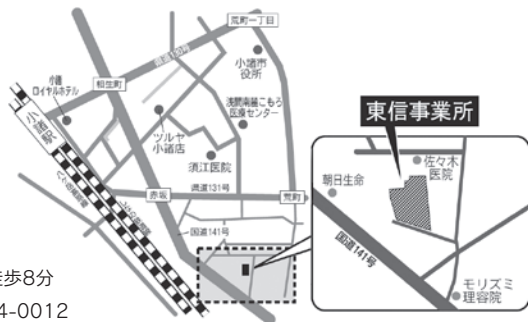
▼▼▼東信事業所

東信事業所移転のお知らせ

JA全農長野東信事業所は、JA東信会館の閉鎖により、2月10日(月)より新事業所にて業務を開始しました。

JA東信会館は昭和62年12月に中央会・信連・経済連・共済連が共同で建設し、それまでの佐久農協会館にあった各連の東信支所および上田事務所が移転し業務を開始しました。平成13年に経済連は全農と統合し全農長野となった以降も今日まで37年間にわたり東信地域のJA経済事業拠点として同会館を活用して参りました。

同会館の老朽化により修繕、維持管理における課題が多いことから検討を重ね、この度JA東信会館を閉鎖し、東信事業所を移転する運びとなりました。



小諸駅より徒歩8分

住所/〒384-0012

長野県小諸市南町1-3-14

電話番号/(代表)0267-24-1150 *変更ありません

FAX/(代表)0267-24-1190 *変更ありません

JA全農長野の事業現況

令和6年度1月末部門別実績表

(単位：百万円、%)

部門	区分	実績	計画比	前年比
生産振興課		4	0	0
野菜種苗センター		137	93	99
生産振興部計		141	96	102
米	穀	17,494	118	127
果実花き		53,022	109	111
野菜きのこ		71,148	97	104
営業		14,015	94	105
生産販売部計		155,679	103	109
包装資材		7,877	98	103
生産資材		8,352	102	104
農業機械		5,202	102	110
施設住宅		4,331	111	67
生産購買部計		25,762	102	96
畜産酪農		27,004	104	101
三岳牧場		238	78	99
SPF繁殖センター		224	85	95
八ヶ岳牧場		261	100	115
畜産酪農部計		27,727	104	101
燃料・ホームエネルギー		22,756	98	102
SS協同経営		6,629	106	102
生活活		6,566	101	86
生活部計		35,951	100	99
長野県本部計		245,254	102	105

(内部販売高含む)

3月のラジオ番組表

放送日時	放送局	番組名	放送内容(予定)
3月26日(水) 11:50	SBC ラジオ	坂ちゃんのずくだせえぶりでい内「暮らしの応援団」	生活課

グリーンリーダー
X(旧ツイッター)はこちら



グリーンリーダー
WEB版はこちら



今月のおすすめレシピ

Instagramレシピコンテストキャンペーン入賞レシピ

炊飯器で作る「鶏肉ときのこの豆乳シチュー」



■材料

- ・鶏手羽元……………4本程度
 - ・お好みのきのこ…たっぶり
 - (今回はしめじ・舞茸各1パック、えのきたけ・エリンギ・しいたけ各1/2パック)
 - ・にんにく……………1片
 - ・玉ねぎ……………1/2個
 - ・じゃが芋……………2~3個
 - ・無調整豆乳……………200ml
 - ・塩小さじ……………1/2強
 - ・鶏ガラスープの素…小さじ1
- 〈仕上げ用〉
- ・胡椒……………少々
 - ・粉チーズ……………好きなだけ
 - ・お好みで青ネギ……………少々

■作り方

- ①玉ねぎ、にんにくは薄切り、じゃが芋は皮をむいて食べやすい大きさにカット。
- ②きのこもそれぞれ食べやすい大きさにカット。
- ③鶏手羽元はペーパータオルで水気を拭いておく。
- ④材料をすべて炊飯器に入れて炊飯スイッチを押す。
- ⑤仕上げに粉チーズと青ネギ、黒胡椒をかけて完成。

ワンポイントアドバイス

- *じゃが芋は煮崩れしにくい品種がおすすめ。
- *パスタを入れてピザ用チーズを乗せて焼けばグラタンになります。
- *炊飯器での調理は、圧力鍋で作ったように鶏肉がホロホロに柔らかくなります。切らずに使えて骨付きのため、出し汁がよく出ます。
- *コチュジャンや豆板醤で辛くしたり、カレー粉を入れてスープカレーにしたり、アレンジしてみてください。

編集後記

2月3日に立春を迎え、暦の上では春がスタートしましたが、全国的に大寒波が襲来しています。県内では北信地域を主に降雪による被害が発生しております。雪害復旧作業の事故も含め、被害が最小限となることを祈るばかりです。

さて、1月より通常国会において、予算・税制改正に関する審議が開始され、適正な価格形成に関する法案が審議されました。さらに1月下旬、農水省から、備蓄米に関する新たな仕組みや、令和9年度以降の水田政策の方向性が示されるなど、真に「食料安全保障」を基軸とする日本農業の転換期に入ったと言えます。

農業に対する厳しい状況は、全農長野も例外ではありません。一層の全農長野のブランド強化・コーポレート・アイデンティティの積極的な発信が必要であることから、新たな広報テレビCMを制作し、3月より放映いたします。春編(野菜種苗センター)・夏編(高原野菜)・秋編(果実)・冬編(八ヶ岳牧場)の4編を季節毎に県内民法4局、およびSNSで積極的に放送してまいります。当月号の裏表紙には春編のイメージカットを掲載しておりますのでぜひご覧ください。

(一)

グリーンレター13月号 (毎月発行) 2025年2月20日発行
発行/ JA全農長野 長野市大字南長野北石堂町1177番地3
第550号
発行人/ 長谷川孝治 印刷/ PO印刷株式会社 長野市青木島3丁目3番地3

春には春の

JA全農長野です。



光と風と水のハーモニー

JA全農長野



光と風と水のハーモニー

JA全農長野



JA 全農長野ホームページ…………… <https://www.nn.zennoh.or.jp>
インターネットで産地直送「JA タウン」…………… <https://www.ja-town.com>

